

古川町地区における公共の空間活用による スケートボードエリア実証実験について (結果)

【実験の背景・目的】

平成22～24年にかけて、飛騨市文化交流センター交流広場でスケートボードを楽しむ若者が増加しましたが、一部利用者によるマナー違反や騒音に関する苦情を受け、やむなく利用禁止となりました。その後も、エリア整備を望む声が継続して市議会から寄せられ、市として検討を重ねてきました。しかし、整備や維持管理には高額な費用がかかること、安全管理の課題があることなどから、いまだ明確な結論には至っていませんでした。

こうした中で令和7年度は、市内愛好者や有識者の意見などから、スケートボードの世界的な流れである「空間利用」の考え方を取り入れ、飛騨市文化交流センター交流広場で実証実験を実施しました。

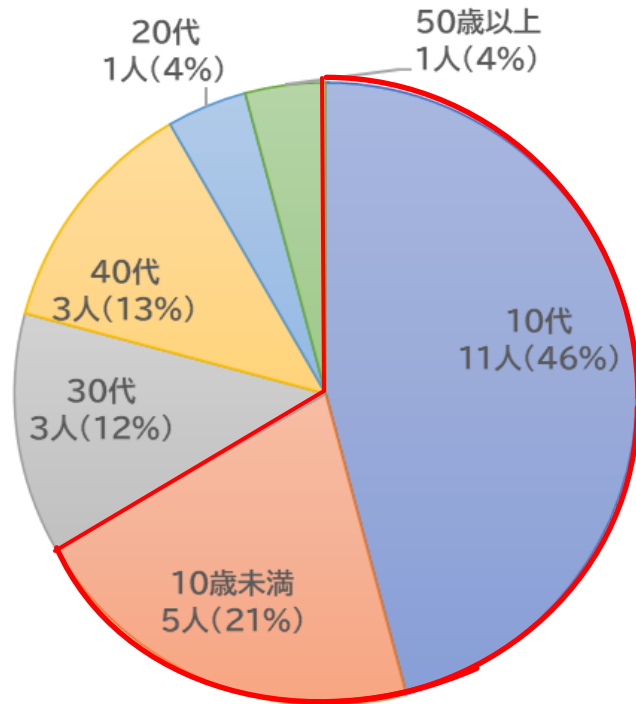
1. 実証の方法

実証内容	①場 所：飛騨市文化交流センター 交流広場内 交流広場内の構造物等に影響がない「平場のエリア」に限定
	②利用者：利用者はスポーツ振興課に事前登録する 登録時には利用ルールを示して遵守を誓約してもらう
実施期間	4月26日（土）～6月28日（土）の64日間
実施時間	平日15：00～18：00 休日08：30～18：00（6月～時間を30分短縮変更）
管 理	管理人（スポーツ振興課職員）が常駐し、ルールやマナーの遵守を確認した

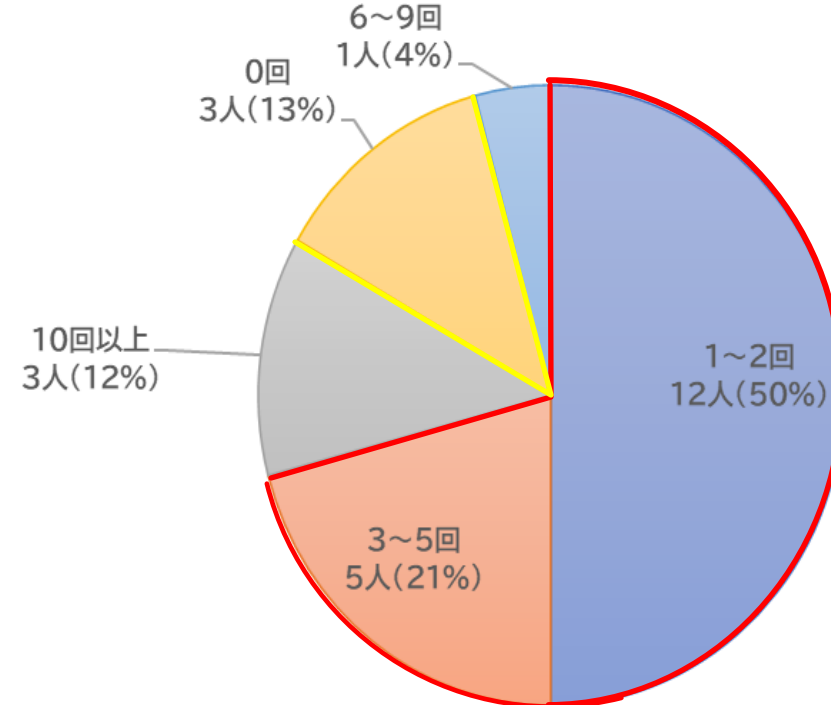
2. 結果について

開放実績	40日（内訳：平日26日、休日14日） （雨天及び文化交流センターでのイベント開催日は混雑を避けるために閉場する）	
利用実績	30日【利用者0人の日が10日】（内訳：平日8日、休日2日）	
登録者数	24人（登録のみ：3人）	年齢 3歳～52歳
利用回数	延べ105回	1日の平均人数 約2.6人（内訳：平日1.8人、休日4.2人）
平均利用時間	約1時間	
利用が多い時間帯	17時～18時（平日・休日共）	

利用登録者数(年代別)

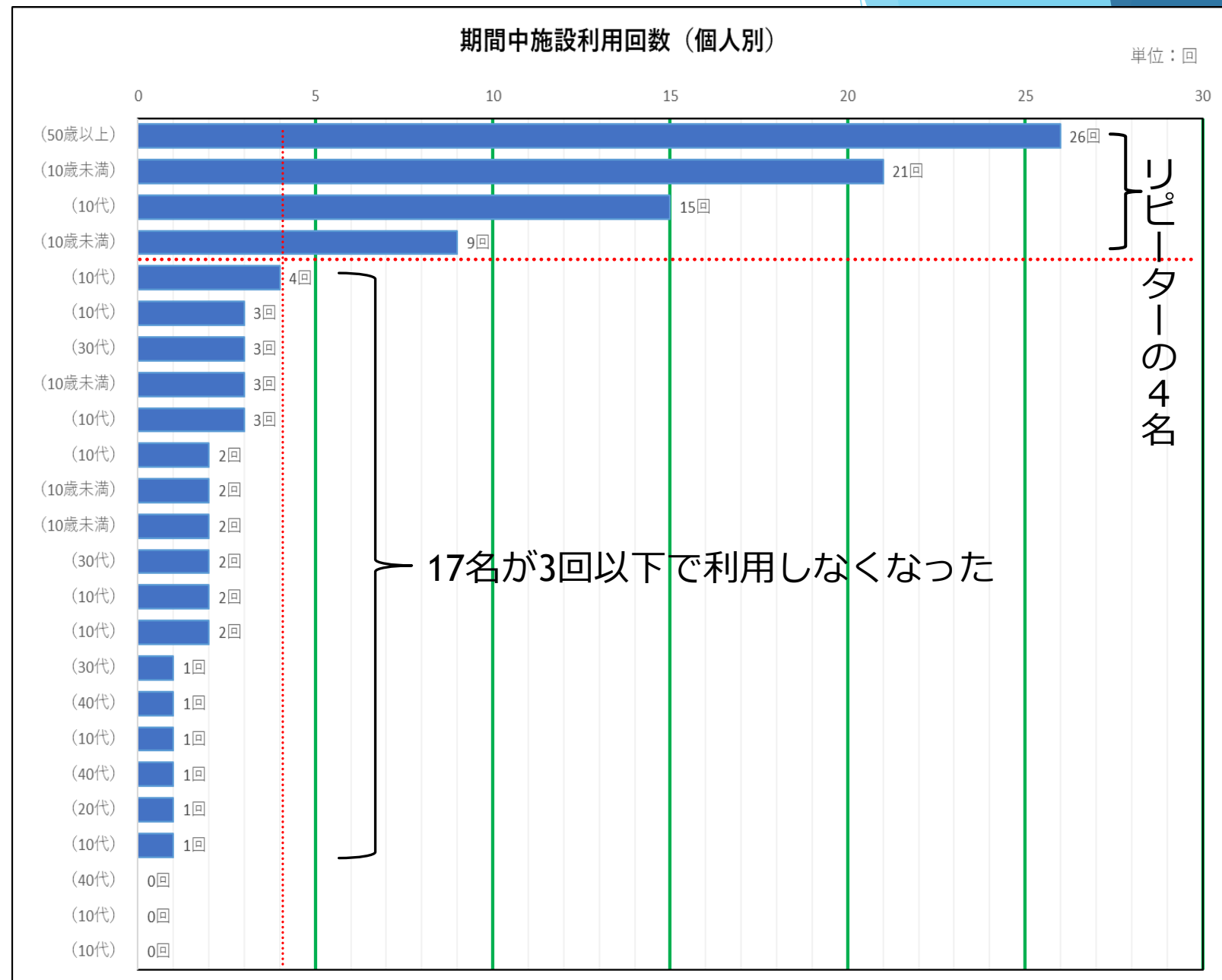


期間中利用回数



- ・利用者の年代別構成は全体の約半数が10代（11人）で、次いで10歳未満（5人）が続き、7割弱が児童生徒の年齢層でした。
- ・利用回数は0回を除き2回以下の利用が半数で、5回以下を加えると全体の7割を占め、ほとんどの人が5回以下で利用しなくなりました。繰り返し利用をするリピーターはわずか4人でした。
- ・登録者は古川町の居住者のみで、他地区からの利用者は有りませんでした。

- 延べ利用回数105回のうち9回以上繰り返してリピート利用している方は4名のみで、その他の方は1～3回程度（お試し）で利用されなくなりました。



3.結果のまとめと今後の事業方針

公共の空間を活用する実証実験としては、利用した文化交流センター交流広場は、誰もが自由に利用できる公共の空間（パブリックスペース）であり、飛驒古川駅やハートピア古川への通り道となっていることから、毎日多くの人が行き来しています。そのため実験の実施にあたっては、管理者を置くとともに、事前登録制として登録者に利用上のルール説明を実施しました。その結果、実験期間中は一般の広場利用者からの苦情は無く、周辺住民や隣接の公共施設からも騒音などの苦情はありませんでした。

また、今回の実験では、スケートボードエリアのニーズを正確に把握するため、事前登録制で運営することとしました。結果、登録者数は24人でこのうち3人は登録のみで実利用者は21人でした。

さらに、このうちの約8割の方が1～3回で利用されなくなり、繰り返し利用するリピーター（9回以上の利用）の方は4人のみとなりました。（参照：5ページ）

本実証実験により、公共区間の利用については事前登録で利用上のルールを説明すれば適切に利用される可能性が高いことが確認できましたが、そもそも古川地区における公共のスケートボードエリアの利用ニーズは、現状では必ずしも高くないことがわかりました。

以上から、市としましては、現時点では古川町内での公共のスケートボードエリアの整備は行わず、今後ニーズが高まってくれば、その時点で再度整備の必要性を検討する方針とします。

今回の実験の実施にあたりご協力いただいた関係各位には厚く御礼申し上げます。